

第 11 回コンクリート技術研修会

日時：2022年9月30日(金)13:00~17:00

場所：サンピアセリーズ 高知市高須砂地 155

主催：高知県コンクリート診断士会

共催：(公社)日本コンクリート工学会 四国支部・(公社)高知県土木施工管理技士会

参加者：113名内女性4名



挨拶：原田 隆敏

高知県コンクリート診断士会会長

関係各位また講師陣のご尽力により、第 11 回の研修会を開催することができました。新型コロナウイルス感染の影響を受け 3 年ぶりの開催となります。当会は 2008 年に 20 数名で発足、現在技術顧問 3 名、特別会員 2 名、一般会員 57 の合計 62 名で活動しております。

近年はコンクリートの表層品質が耐久性に与える影響について、話題となっています。良質なコンクリート構造物を造る際の各段階における留置点や工夫等について第一線でご活躍されている講師陣を招いた研修会となっております。本日参加の皆様におかれましては、研修会で得られた知見を、今後の業務に反映させていただければ幸いです。



【講演Ⅰ】

『高知県におけるコンクリート打設等の工夫について』

廣末 清久

高知県土木部技術管理課技査

高知県内ではインフラ構造物の維持管理技術者の養成を実施している。検査は近接目視点検を基本としており近年ではDXを導入し成果を挙げている。コンクリート構造物はコンクリート打設から養生等を工夫することで、耐久性向上が期待できる。県内で実施された施工例を紹介し各施工段階での取り組みでコンクリートの初期欠陥が低減できる方法が示された。



【講演Ⅱ】

『四国地方整備局管内における道路の長寿命化対策について』

松島 章公

国土交通省四国地方整備 道路部道路課 道路構造保全官

国民の生活を支えるインフラ構造物の老朽化が問題となっている。橋及びトンネルにおいては平成 26 年に 5 年/回による近接目視による点検が義務付けられた。予算を得るには国民の理解が重要であり、点検結果の見える化を進めている。今後築 50 年を超える構造物が加速的に増加することへの対応として、技術者の確保とDX等を駆使した効率化を図り、老朽化対策を進めることが重要である。



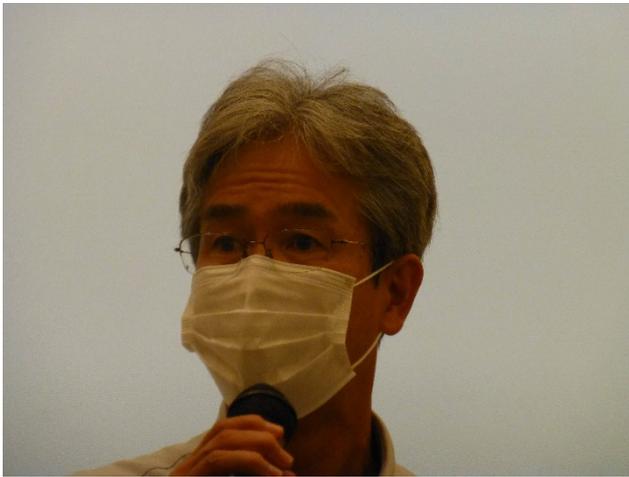
【講演Ⅲ】

『コンクリートの品質確保のための養生の本質理解とコンクリートの炭酸化の利用』

伊与田 岳史

芝浦工業大学 先進国際課程(土木工学科兼任)教授

コンクリートの養生は強度、耐久性等所要の品質を確保するための手段である。養生が与える影響について圧縮強度、水和、中性化等の実験例を参考に報告があり、養生はセメントの水和と密接にかかわっており、コンクリートの表層品質に与える影響が大きい(20 mm程度)。養生だけで問題が全て解決ではなく、施工が非常に重要になってくる。カーボンニュートラル実現に向けセメント・コンクリート分野ではCO₂排出削減とCO₂吸収・固定化で対応する方向性が示されており、前者ではセメントの代替品活用、後者は再生骨材にCO₂を固定化し再生骨材の高品質などの事例が紹介された。



【閉会挨拶】

島 弘

高知工科大学教授

高知県コンクリート診断士会が設立して14年が経過しました。コンクリート診断はよく医療の診察と比べられ、両者とも不具合の原因究明と、対処療法が極めて重要です。是非コンクリート診断士を取得して頂き、得られた技術力でコンクリート構造物の耐久性向上並びに、インフラ整備等に貢献してもらいたい。また、コンクリート診断士に合格された場合は是非、当会に加入して頂きたい。

会場写真

